

會 員 便 り

交通部道路司 舞 木 諦
地方工事科

思 ひ 浮 ぶ 事

たしか、坂田時和さんの書かれたものであつたと思ふ、次の様な記事を読んだことを覚えて居る。これもたしか、テームス河であつたと思ふ、其處に架設する橋梁を なにかの手違から、川底に落して仕舞つたことがあつた。それが議會の問題に迄なり、主任技術者の責任は誠に重大なるものがあつた。然し差當り當面の問題として再設架が計畫されたとき、其の主任技術者として最初の橋を落した技師が再度撰ばれたとのことであつた。其の理由として少くも一度其の經驗をなめたものは再び同一の失敗は繰り返すまい、此の點だけは未知の技師より安心であるとのことであつた。これが各方面の一致した意見であつたとのことである。

坂田さんは云ふ、之が日本の場合であつたなら、私も亦考へる日本の場合であつたなら失敗した技術者は或は再起が不可能かも知れぬ。

失敗は共通性を持つ、獨り技術者のみ其の國外に在ることは不可能である、然して失敗は之を他山の石たらしめねばならぬ、即ち必要なる部分は之を公開す可き義務があると考へる。之が明日の進歩を約束する。

此の場合失敗者に對して吾人に常に寛大でなければならぬ。

人は眞理の忌避者である、これはたしかニイチエかの言葉であつたと思ふ。

私は時折之を痛感する生々しい事實は時に之を正視し得ないものである。

吾人は適當に、道草を食はねばならぬ、事實を潤色せねばならぬ、嘘偽計りの世の中もなければ眞理計りの社會もない。其の中庸を行くと云ふことが如

何に至難であるかと云ふことは其の人の天性り教養にもよる。

畢竟落伍者は先天的に運命づけられて居る。然し眞の落伍者は一體誰の認定にまつ可きもの

◇ ◇ ◇

キリスト教信者と云へ、人格者と云ふものがある。人の悪口もすれば、悪いこともする之々に無條件で拂ふ尊崇はあまりに高かすぎる。激に會えば一たまりもなく碎くる人格ではある

◇ ◇ ◇

秋の山々は地平はるか淡いインデージーに。これから目の前迄 雜然と立木が並んで居る。薄い赤を交へた色彩が平地の大部を掩ふて處々萌る烟もある。立木の一群は押し黙つた静寂である。見る者により淡い旅愁を覺ゆる。

◇ ◇ ◇

融和、調和、協和と云ふ内容は種々雑多でせざるよりはした方が勿論好いことではあるが人は只安價なる安逸を求む可きではない。

直ちに感情を云々するは、之婦女子の業で東亞に覇を唱ふる日本人の努めて避く可き點う。吾人は人を憎む可きではない。けれどもブルも避け得ない。そこに完成への道はある。

遠河治水調査處 渡邊安
通達調査事務所

蒙古草原を旅して

- ◎ 大謙に秋野は廣く刈られ行く
- ◎ 遊牧の民へ秋野の暮れんとす
- ◎ 土の家の低き民度へ秋出水
- ◎ 稻妻や胡地草原の闇の涯
- ◎ 金色に暈が落つ曠野草紅葉

交通部道路司直轄工事科 千田 長

健康恢復の喜び



永い間御心配おかけしまして相済みませぬ深く御詫申します。

この度漸く健康恢復しまして再び御世話になることとなり去る十四日やつて参りました全く皆様の御厚情の賜と衷心感謝して居ります。

満洲は三年五ヶ月振りです。負傷してからは實に三年七ヶ月振りです、それまで大部分は親許で暮して参りました、例の腕の神経麻痺ももう大方治り、胸の肺浸潤症もすつかり固まりました、これらは實に長い時日でしたけれども今想へばほんに昨日の感

謝座います。

し振りでこちらに来て見たこと感じたこと、皆珍らしく、新しく、且つ懐しく思ひました、その中で皆んなから同音に不思議がられたことは、どうしてそのやうに肥つたかときかれたことです。

今體重約二十三貫位あるでせう。故郷を出るときは二十二貫五百でしたが、こちらに来てもつとコンディションがいやうですからこの位だらうと思はれます。

家に罹つた當時に並べで約七貫——八貫位の増え方です。この位の格好に肥りますともうそれだけで愛嬌です。日、母校の中學を訪問したときなど面倒くさい挨拶は全然必要なかつたです。たゞハーアといつて頭を下さたり、どの先生も喜んで迎へてくれました。外を出歩くときなど肩で風きる風采が出るやうです。人がよさう云ひますが自分では少しもそんな氣はないのです。でも決して悪い氣分ではなく、何んとなくゆつたりしい氣持です。赴任の途中例のステッキをついて兄妹と共に東京市中を散歩したとき、その位ならステッキも似合ふなどと賞められました。こう肥るとステッキは決して伊達ではなく、盲人の杖とまではゆかなくとも、西郷さんにつれられてる愛犬位の價値は充分あるです。

(五、一〇、二五)

(大朝より)

それは現在の東海道國道その他は屈曲多く幅員が狭く、改良しても高速度で走る見込みがなくまた國鐵も逐年膨脹する貨客を消化することは困難であるとの見地から専用道路が計畫されたわけであるが、計畫案によると同國道の總事業費は約四億圓で計畫の大綱は左の通りである。

- 一、自動車の速度は時速六十マイル
- 二、新國道の幅員は二十米で中央に二米の緑地帯を設け兩側を車道とする。片側七米半
- 三、鐵道、道路など他の交通物體との平面交叉は絶対に避け自動車路は上にする
- 四、重要路線と會する箇所に停車場を置き自動車國道とその路線を聯絡するやう設備する
- 五、橋梁はコンクリート構造とする
- 六、舗装は厚さ二十厘米のコンクリートとする
- 七、事故防止のため兩側に駒止を設ける
- 八、大都市とは環狀線または重要路線によつて聯絡する
- 九、關門海峽は近く工事に着手する關門海底國道をもつて聯絡する

(大朝より轉載)